

みずほCustomer Desk Report 2019/07/17号(As of 2019/07/16)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	107.97
TKY 9:00AM	107.91	1.1261	121.50	GBP/USD	AUD/USD
SYD-NY High	108.37	1.1263	121.67	1.2515	0.7039
SYD-NY Low	107.83	1.1202	121.10	1.2519	0.7045
NY 5:00 PM	108.24	1.1212	121.43	1.2396	0.7010
				1.2405	0.7011
NY DOW	27,335.63	▲ 23.53	日本2年債	-0.1900	▲ 1.00bp
NASDAQ	8,222.80	▲ 35.39	日本10年債	-0.1200	0.00bp
S&P	3,004.04	▲ 10.26	米国2年債	1.8529	1.88bp
日経平均	21,535.25	▲ 150.65	米国5年債	1.8702	2.50bp
TOPIX	1,568.74	▲ 7.57	米国10年債	2.1052	1.56bp
シカゴ日経先物	21,485	▲ 115	独10年債	-0.2905	0.45bp
ロンドンFT	7,577.20	45.48	英10年債	0.8185	2.00bp
DAX	12,430.97	43.63	豪10年債	1.3895	▲ 7.00bp
ハンセン指数	28,619.62	64.74	USDJPY 1M Vol	5.83	▲ 0.07%
上海総合	2,937.62	▲ 4.57	USDJPY 3M Vol	5.91	▲ 0.04%
NY金	1,411.20	▲ 2.30	USDJPY 6M Vol	6.16	0.05%
WTI	57.62	▲ 1.96	USDJPY 1M 25RR	-0.98	Yen Call Over
CRB指数	180.08	▲ 3.00	EURJPY 3M Vol	6.02	▲ 0.06%
ドルインデックス	97.40	0.46	EURJPY 6M Vol	6.52	0.02%

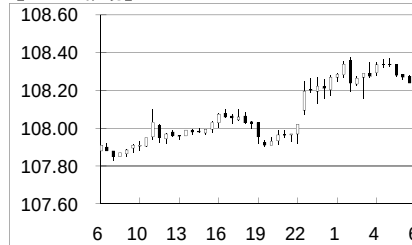
【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
7月16日	17:30	英 ILO失業率(3ヵ月)	5月 3.8%	3.8%
	18:00	独 ZEW調査(現状/期待)	6月 -1.1/-24.5	5.0/-22.0
	21:30	米 小売売上高(前月比)	6月 0.4%	0.2%
	22:15	米 鉱工業生産(前月比)	6月 0.0%	0.1%
7月17日	2:00	米 パウエルFRB議長講演「やや緩和的な金融政策を必要とする条件が整った」		

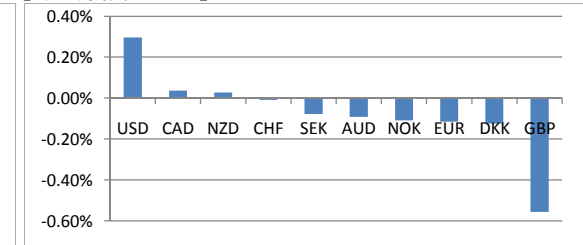
【本日の予定】

Date	Time	Event	予想	前回
7月17日	17:30	英 CPI(前月比/前年比)	6月 0.0%/2.0%	0.3%/2.0%
	18:00	欧 CPI(前月比/前年比)・確報	6月 0.1%/1.2%	0.1%/1.2%
	21:30	米 住宅着工件数/建設許可件数	6月 1,260K/1,300K	1,269K/1,294K
7月18日	3:00	米 ページブック公表		

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【予想レンジ】

通貨ペア	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY
想定レンジ	107.80-108.50	1.1150-1.1250	120.80-122.00

【マーケットインプレッション】

昨日のドル円は上昇した。東京3連休明け序盤は狭いレンジでの推移が続いたが、米6月小売売上高(前月比)が市場予想を上回る結果となったことを受けてドル円は108.20台まで上昇。米長期金利の上昇もドル円の上値を押し上げ、一時108.37をつける。その後、トランプ米大統領が自分が望めば中国からの輸入品に追加関税を課することができると述べたことや、パウエルFRB議長がハト派姿勢を維持したことを手がかりに108.16まで反落した。本日のドル円は下落する展開を予想。昨日のパウエルFRB議長のバリーでの講演は7月の利下げ期待を後退させることはなかった。利下げ期待がドル円の上値を抑える展開が考えられる。加えてトランプ米大統領の発言は米中通商問題への懸念を再浮上させるものであり、ネガティブなヘッドラインが警戒される。

東京	東京時間のドル円は107.91レベルでスタート。東京3連休明けということもあって仲値公表前より実需のドル買いが優勢となり、一時108.10まで上昇。しかし日経平均株価が上値重く推移する中でドル円は反落し、その後は方向感なく小さい値幅で推移が続く。終盤にかけては再び確りと推移すると、108.08レベルで海外市場へ渡った。(東京15:30)
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、108.08レベルでオープン。特段目新しい材料のない中、107.90から108.10の狭いレンジで推移。107.97レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.2513レベルでオープン。前日に行われた英保守党党首候補の討論では、ジョンソン前外相とハート外相ともに、BREXIT後のアイルランド国境管理を巡り、メイ首相がEUと合意したバックストップ条項(英領の北アイルランドと、EU加盟国のアイルランドの国境管理厳格化を避ける条項)を受け入れられないと表明。EUとの対立が深まるとの思惑や、合意なき離脱への警戒感からポンドは全面安。1.2409まで下落し、1.2428レベルでNYに渡った。(ロンドン17:00 00531 444 179 北原)
ニューヨーク	海外市場で弱い欧州経済指標を受けドル買いが強まる一方、ユーロ円が下落する動きに、ドル円は値動きを挟まれ、107.83~108.10でのレンジ推移が続く。107.97レベルでNYオープン。朝方は、前回分が下方修正されたが、米6月小売売上高(前月比)が予想を上回ったことから、ドル円は108.20まで上昇する。その後も米金利が上昇する動きにドル円もじり高推移し、108.26を付ける。続いて発表された米6月鉱工業生産が予想を下回ったことから108.13まで下押しするが、米格付会社が「ECBは早ければ9月にも利下げ」との内容のレポートを出したと報じられたこともあり、108.27まで戻す。その後も米長期金利が2.14%まで上昇する中、ドル円は108.37まで戻すが、トランプ大統領が「私が望めば中国に追加関税を課することが可能」と話したことや、1時から始まったパウエル議長の講演で、「Fedは不透明感の高まりを受け、適切に行動」と利下げに肯定的な発言をしたことから108.16まで反落する。午後は、ポンペオ米務長官が「インは条件があれば米国と協議に応じる構え」と話したことを受け、原油相場が急落する展開に、コモディティ通貨売り、ドル買いが強まり、ドル円も108.37まで戻し、108.24レベルでクロスした。一方、ユーロドルは独7月ZEW景気期待指数が予想以上に悪化したことから売りが強まり、1.1222レベルでNYオープン。朝方は米小売売上高を受けたドル買いに1.1209まで下落する。その後も前述の米格付会社の見解を受け軟調な推移が続く。午後に入ると再びドル買いが優勢となったことから1.1202まで下落する。終盤に掛けては、狭いレンジでの推移が続く。1.1212レベルでクロスした。(NY井上)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなされるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当:関・小笠原